

# 初学者向けのピアノ教材に関する検討 ～メトードローズ・ピアノ教則本を例に～

山崎 英明

(人間学部子ども学科)

## A Study on Piano Teaching Materials for Beginners ～ About the Content of "METHODE ROSE" ～

Hideaki YAMAZAKI

(Department of Child Studies, Faculty of Human Sciences)

本研究は初学者向けのピアノ教則本について『メトードローズ・ピアノ教則本』（以下、『メトードローズ』）を例に検討をおこなったものである。教則本の全容を明らかにするため、どのような練習内容が盛り込まれ、初学者は何を学ぶことができるのかについて調査した。『メトードローズ』はフランスの童謡が多く収められており、無理なく自然にピアノに慣れ親しみながら“歌うように弾けるようになる”子どものための教則本として広く知られている。予備練習とそれを応用した練習曲がバランスよく網羅され、習得すべきテクニックやその目的がわかりやすく明示されている。また、理解すべき音楽理論が各練習曲の中で実践的に習得することができる体系的に構成された合理的な教則本である。このことから、決して子ども用の教材ではなく、指定保育士養成施設（以下、養成校）における初学者向けのテキストとしても十分に価値を発揮することのできる極めて教育効果が高い教材であることがわかった。

キーワード：ピアノ、保育者養成、初学者、教材、教則本、メソッド、メトードローズ

### はじめに

我が国の初学者向けのピアノ教則本は、古くからフェルディナント・バイエル（Ferdinand Beyer）の『バイエルピアノ教則本』（以下、『バイエル』）が不動の地位に君臨している。これに並び、主に子どものための教材として愛用されてきたのが『メトードローズ』である。

『バイエル』は就職試験や教員採用試験などに出題されることもあり、養成校でも授業教材として使用されていることが多い（鷹羽、2011；山本、2017）。

山路（2020）は全国の養成校 684 校の中から 463 校に限定し、ホームページで授業計画（シラバス）

の閲覧が可能な 364 校について調査をおこなっている。これによると、ピアノ実技科目において、教材に教則本を用いている養成校は、364 校中 203 校（56%）であり、そのうち『バイエル』を使用しているのが 180 校（88.6%）に対して、『メトードローズ』はわずか 3 校（1.4%）であった。

教材として多く用いられていることもあり、これまで『バイエル』を対象とした研究は多くの研究者によってなされ、教材としての問題点や課題が指摘され始めている。具体的には、全 106 曲のうち半分以上が大譜表の下段がト音記号になっているためにヘ音記号を用いた楽譜に入りにくいなどの応用面が弱い点や、それぞれの楽曲に標題が付いていないため音楽をイメージしながら表現することが難しく、

練習している曲に興味を持ちにくい点、音楽性に幅がなく、無味乾燥な曲が並んでいる点など、音楽の表情を学ぶのに大事な幼児や低学年の時期には適さないなどである（鷹羽 2011、井上 2019）。

一方で、養成校のテキストとしてほとんど使用されていない『メトードローズ』についての研究はあまりみられないことから、指導教材としてこの教則本の内容を検討することは意義深い。

本研究は初学者向けのピアノ教則本について『メトードローズ』を例に検討をおこなったものである。教材としての全容を明らかにするため、各練習内容と応用のための練習曲について調査し、どのような内容が盛り込まれ、何が学べるのかについてまとめた。

## 1. 『メトードローズ』について

初学者向けの教材として使用されてきた『バイエル』と『メトードローズ』の2つの教則本だが、その性格や特徴は正反対といえる（表1）。

表1 バイエルの比較（前田、2012）<sup>1)</sup>

	音楽体験	教材としての特徴
バイエル	観念的	機械的
メトードローズ	経験的	音楽的

『メトードローズ』はエルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド（Ernest Van De Verd）によって、主に小さな子どもたちのために作られた。“一步一步むずかしいところを克服しながら、無理なく知らず知らず上達する”、“どんなに小さな予備練習や練習曲でもメロディックに”というコンセプトのピアノ教則本である。

1951年、ピアニストでもある安川加壽子（1922-1996）<sup>2)</sup>によって翻訳された。フランスでは趣味で弾く人も専門家になろうとする人も必ずこの教則本を使う。彼女は1歳からフランスで勉強しており、自身もメトードローズで学んでいた。他の教則本と違うところは、ごく小さい子どもたちに対象が向けられていることであり、理屈を考えなくとも指が自然に動き、楽に音符（楽譜）が読めるようになると同時にリズムの変化が自然に会得できるようにできている。また、有名なフランスの童謡が多く収められていることも特色となっている。翻訳した

経緯としても「明るくきれいなメロディを習いながらピアノに親しむ。小さい子どもにピアノを習わせるために本当に優れた良い教科書」と評価している。なお、翻訳された教則本の冒頭には1950年11月18日付で安川の恩師、パリ音楽院教授（当時）ラザール・レヴィ氏から「小さい子どもたちのために書かれた教則本の中で一番成功したもの」と手書きの推薦書が印刷されている。

この教則本の最大の特徴は、旋律の美しさを重視している点にある。レガート<sup>3)</sup>を意識した比較的短い子どもの歌（民謡や童謡）が多く収められており、習慣的に歌に触れることによって“歌うこと”を基盤とする音楽アプローチの意識が確立されるように構成されている。

## 2. 調査

『メトードローズ』は全6課程から構成されており、ピアノ奏法のほかにも音楽理論を体系的に学ぶことができるようになっている。

本研究は、各課程の練習内容と応用のための練習曲について調査し、どのような内容が盛り込まれ、何が学べるのかについてまとめたものである。基礎的な部分に特化するため、楽曲（課題曲）については本稿では触れない。この調査は2022年に発行された『新版 メトードローズ・ピアノ教則本 ピアノの1年生』<sup>4)</sup>を用いておこなった。

## 3. 結果

### 第1課程

教則本はピアノを弾くための「正しい姿勢」を解説後、鍵盤の位置とオクターヴについて確認することから始められている。第1課程では、高音部譜表および低音部譜表を片手で弾きながら、基本的な楽譜の読み方やリズムを理解するための予備練習が多く用意されている（表2）。

### 第2課程

この課程から大譜表が登場し、両手が別々の音符を弾く練習となる。以降、左ページには指の予備練習と拍子を覚えるための練習曲、右ページはこれらに応用するための楽曲（課題曲）となっている（表3および表8～13）。

表2 第1課程の内容

	練習内容	練習番号	曲種	備考
第1課	高音部譜表の練習 五指の練習 音階的順次進行の練習	1	—	
		2		
		3		
		4		
		5		
	隣り合った音程の練習	1	—	
		2		
		3		
		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
		9		
		10		
		11		
	続いていない音程の練習 (跳躍音程進行)	1	—	3度の練習
		2		
		3		
		4		
		5		4度の練習
		6		
		7		5度の練習
		8		
		9		総合練習
	リズムの練習 (隣合った音程)	1	—	
		2		
		3		二分音符と 付点二分音符の理解
		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
	リズムの練習 (続いていない音程)	1	—	
		2		
		3		
	ソのポジション	1	—	
		2		
		3		
		4		
		5		
	第2課への準備	1	—	低音部譜表の理解
		2		
		3		
		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
		9	予備練習	

表3 第2課程の内容

	練習内容	練習番号	曲種	備考
第2課	ドのポジション	1	練習曲	
		2		
	ドのポジション	1	予備練習	スラーの理解
		2		
		3		
	ソのポジション	1	予備練習	
		2	& 練習曲	
		3		
		4	練習曲	
		5		
		6		
		7		
	色々なポジション	1	予備練習	ドのポジション
		2		ソのポジション
		3	練習曲	右手：ドのポジション 左手：ソのポジション
		4		右手：ソのポジション 左手：ドのポジション
		5		右手：ドのポジション 左手：ソのポジション
		6		右手：ソのポジション 左手：ドのポジション
		7		右手：ドのポジション 左手：ソのポジション

表4 第3課程の内容

	練習内容	練習番号	曲種	備考
第3課	6度	1	予備練習 & 練習曲	
		2		
		3		
		4		D.C (Da Capo) の理解 二分休符初出
		5		
	付点音符の練習	1	予備練習	付点二分音符の理解
		2	練習曲	
		3		
		4		
		5		
	シャープ (嬰記号) の練習	1	予備練習	臨時記号
		2		
		3		
		4	練習曲	ト長調
		5	予備練習	レのポジション
		6	練習曲	(ニ長調)
	休符の練習	1	—	全休符の理解
		2		
		3		
		4		二分休符の理解
5		四分休符の理解		

### 第3課程

この課程では特に左手に軸を置き、5度の音域よりも手を広げるテクニックを学ぶ。休符（全休符、二分休符、四分休符）が初出するのもこの課程からである。そのほかにも嬰記号（♯＝シャープ）が初出する（表4）。

### 第4課程

この課程から八分音符が初出する。新しい拍子（6/8拍子と3/8拍子）やリズムの組み合わせ、音の保持など新たな奏法を学ぶ。そのほかにも変記号（b＝フラット）が初出する（表5）。

### 第5課程

この課程では指の柔軟性を高めることを軸として、広げたり寄せたり、和音を弾くことを主に学ぶ。これまでの課程よりも一層テクニカルな奏法が求められるようになる（表6）。

### 第6課程

この課程ではこれまで学習したテクニックの種類をより発展させて学ぶ。最後の課程にふさわしく、“豊かな音でセンス良く弾くこと”を目的に音楽的な「表情をつけること」を学習する（表7）。

表5 第4課程の内容

	練習内容	練習番号	曲種	備考
第 4 課	八分音符の練習	A	—	リズム練習（数え方）
		B		
		C		
		D		
		1		
		2		
		3		
		4		
	八分音符の練習	5	予備練習	
		1		
		2		
		3		
		4		
	音の保持	5	練習曲	タイの理解
		6		
		7		
		8		
	付点音符の練習	1	予備練習	
		2		
		3		
		4	練習曲	
		5		
		6		
	音の保持	7	—	
		8		
	—	1	予備練習 & 練習曲	
		2		
		3		
		4		
	フラット （変記号）の練習	5	—	ファのポジション （ヘ長調）
		6		
		7		
音の保持	8	—		
3/8 拍子 と 6/8 拍子	1	予備練習		
	2			
	3			
	4	練習曲		
	5			
音の保持	6	—		
親指の練習	1	予備練習 & 練習曲	親指と手首の使い方の 理解	
	2			
	3			
	4			

表6 第5課程の内容

	練習内容	練習番号	曲種	備考
第5課	指を広げる練習	1	予備練習	
		2		
	二重和音の練習	3		
		4		
		5		
	—	6	練習曲	
		7		
	指を広げる練習	1	予備練習&練習曲	順次進行の練習
	レガートの練習	2		指の間を広げる練習
	ラの短調の ポジション	3	予備練習 練習曲	
		4		
	指を寄せる練習	1	予備練習&練習曲	
		2		
		3		
	右手は広げて、左手 は寄せる練習	4		
	ラの短調の ポジション	5	予備練習 練習曲	
		6		
	レガートの弾き方	1	予備練習&練習曲	
		2		
		3		
	トリルの基礎	4	予備練習	
		5		
		6		
	レの短調の ポジション	7	練習曲	
		1		
	指を広げる (連打音)	2	予備練習	
		3		
		4		
		5		
	—	6	練習曲	
		7		
		1		

表7 第6課程の内容

	練習内容	練習番号	曲種	備考	
第 6 課	表情の練習	1	予備練習&練習曲	強弱の理解	
		2			
		3			
		4		クレシェンドおよび デクレシェンドの理解	
		5			
		6			
	—	1	予備練習&練習曲	表情的で滑らかな弾き方 を理解する	
		2			
		3			
		4			
	指を置き換える 練習	5			
		6			
	—	7	予備練習&練習曲	指を広げる予備練習	
		1			
		2		和音の奏法を理解	
		3			
		4			
		5		練習曲	
		6			
	7				
	反進行の音階	1	音階練習	ハ長調	
		2		ト長調	
		3		ニ長調	
		4		イ長調	
		5		ホ長調	
	平行に弾く音階 の練習	1		1 オクターヴ（上行）	
		2		2 オクターヴ（上行）	
		3		3 オクターヴ（上行）	
		4		1 オクターヴ（下行）	
		5		2 オクターヴ（下行）	
		6		3 オクターヴ（下行）	
	長音階	1		ハ長調	
		2		ト長調	
		3		ニ長調	
		4		イ長調	
		5		ホ長調	
		6		ロ長調	
		7		ヘ長調	
		8		変ロ長調	
		9		変ホ長調	
		10		変イ長調	
		11		変ニ長調	
		12		変ト長調	
	短音階	1		イ短調	
		2		ホ短調	
		3		ロ短調	
		4		嬰ホ短調	
		5		嬰ハ短調	
		6		嬰ト短調	
		7		ニ短調	
		8		ト短調	
		9		ハ短調	
		10		ヘ短調	
		11		変ロ短調	
12		変ホ短調			

## 4. 考察

『バイエル』と『メトードローズ』はいずれも初学者向けの教則本だが、その違いについては、第一に大譜表が出てくる課（第2課以降）から、左右の手が別々の音符を弾く（旋律部分と伴奏部分を弾く）構成になっている点である。『メトードローズ』には“片手ずつ覚えてから両手で弾く”と指示があることから、始めにメロディを覚えてから徐々に両手で別々の音を弾くことに慣れていくアプローチと

表 8 第 1 課程における楽曲とその内容

課程	課題曲	調性	拍子	小節数	速度・曲想	右手	左手	備考
第 1 課	小さいお友達	ハ長調	4/4	8	—	2 点ハ～2 点ト	—	連弾曲
	バラ色の円舞曲	ハ長調	4/4	8	—	2 点ハ～2 点ト	—	
	子どものロンド	ト長調	4/4	16	—	1 点ト～2 点ニ	—	

表 9 第 2 課程における楽曲とその内容

課程	課題曲（原題）	調性	拍子	小節数	速度・曲想	右手	左手	備考
第 2 課	さあ！はじめます（Je commence）	ハ長調	4/4	18	普通で速度で	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	最初の歩み（les premiers pas）	ハ長調	4/4	12	リズムをはっきりと	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	田舎の踊り（Danse villageoise）	ハ長調	3/4	8	ゆかいに	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	子守歌（Berceuse）	ハ長調	4/4	8	非常にやさしく	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	満足（Contentement）	ハ長調	4/4	12	よくおちついて	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	ブーレ（Bourrée）	ハ長調	3/4	16	リズムをはっきり出しましょう	1 点ト～2 点ニ	ト～ニ	
	とべ！小さな蜜蜂よ！ （Petite abeille bourdonne）	ハ長調	4/4	12	Sostenuto	1 点ト～2 点ニ	ト～ニ	「Sostenuto」初出
	お山の大將（boute-en-train）	ハ長調	4/4	8	—	1 点ト～2 点ニ	ハ～ト	右手：ソのポジション 左手：ドのポジション
	おばあちゃんのお話 （Conte de grand-mère）	ハ長調	4/4	20	—	2 点ハ～2 点ト	ト～ニ	右手：ドのポジション 左手：ソのポジション

表 10 第 3 課程における楽曲とその内容<sup>5)</sup>

課程	課題曲（原題）	調性	拍子	小節数	速度・曲想	右手	左手
第 3 課	小さい円舞曲（petite valse）	ハ長調	3/4	24	常になめらかに、そしてやさしく	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト
	月の光に（Au clair de la lune）	ハ長調	4/4	16	非常に素直に	1 点ト～2 点ホ	ろ～ト
	シュゾン（Suzon）	ハ長調	4/4	11	非常にやさしく	2 点ハ～2 点ト	ろ～ト
	お父さま！（petit papa）	ト長調	4/4	16	親しげに	1 点ト～2 点ニ	と～ニ
	木掘りの小さい兵隊さん（les かっこう鳥（le coucou）	ト長調	4/4	18	威張って	1 点ト～2 点ニ	嬰へ～ニ
	問いと答え（Demande & Rè	ト長調	3/4	16	やさしく	1 点ト～2 点ニ	嬰へ～ニ
	それ！人形が踊る（Ainsi font les	ハ長調	4/4	16	指を深く押さえて	1 点ハ～1 点ヘ	ハ～ト
		ハ長調	4/4	19	しずかに	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト

表 11 第 4 課程における楽曲とその内容

課程	課題曲（原題）	調性	拍子	小節数	速度・曲想	右手	左手	備考
第 4 課	バラ色のメヌエット（Menuet rose）	ハ長調	3/4	13	ほどよい速さで	2 点ハ～2 点ヘ	ろ～ト	
	ああ かわいい！（C'est gentil）	ハ長調	3/4	16	朗らかに	2 点ハ～2 点ト	と～ト	
	ガスコーニュの兵士たち （Les Codets de Gascogne）	ハ長調	4/4	16	明るく、朗らかに	2 点ハ～2 点ト	ろ～ト	
	冬さん、さようなら！（Hiver, adieu!）	ト長調	3/4	15	ほどよい速さで、やさしく	1 点ト～2 点ニ	ト～1 点ニ	rall. 初出
	お城を攻めとられるな！ （latour prends garde!）	ハ長調	3/4	16	—	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	夜の歌（Chant du soir）	ト長調	4/4	11	ゆっくり、とても感傷的に	1 点ト～2 点ニ	嬰へ～1 点ニ	
	私はいいものを持っているのよ！ （J'ai du bon tabac）	ハ長調	4/4	15	はっきりと	2 点ハ～2 点ト	ろ～ト	
	よい子よ、ねんねしな （Dado, l'enfant dort）	ハ長調	4/4	13	ゆるやかに	2 点ハ～3 点ハ	へ～1 点ハ	
	春の朝の歌（Aubade printanière）	ハ長調	6/8	11	やさしく	2 点ハ～2 点ト	ろ～ト	
	ブリュターニュの小唄 （chanson bretonne）	ト長調	3/8	32	陽気に	1 点ト～2 点ニ	嬰へ～1 点ニ	
	風車やさん、ねむっちゃだめよ （Meunier, tu dors）	ハ長調	3/4	8	少し重く	2 点ハ～2 点ト	ハ～ト	
	小さい子守唄（Petite Berceuse）	ト長調	6/8	24	とてもやさしく	1 点嬰へ～2 点ロ	ニ～2 点ニ	フェルマータ初出

考えることができる。第二に、最長でも 24 小節の楽曲であり、加線を要する高音域や低音域はほとんど出現しないなど、あくまで「小さな子どもの手でも弾ける」ことを念頭に考えられた無理のないポジションのみで構成されている点である。第三に、調性について『バイエル』ほど詳細に触れていないことである。これは調性の違いを聴覚と指の感覚をもって「聴き分ける」、「弾き分ける」ことを重要視していると考えられる。

『メトードローズ』の教材としての最も大きな特徴は「歌うことを基盤とする音楽アプローチ」を確立させるためにフランスの民謡や子どもの歌を多く取り入れ、それぞれが標題音楽になっている点にある（表 8～13）。これは保育者における音楽技術の中心である「弾き歌い」の土台作りのためのアプローチである。“歌いながら弾けるようになる”というメトードローズの特徴は、主にピアノの運指を習得するためのバイエルとは全く異なり一線を画す



表 12 第5課程における楽曲とその内容

課程	課題曲（原題）	調性	拍子	小節数	速度・曲想	右手	左手	備考
第5課	シラノ ドベルジュラック (Cyrano de Bergerac)	ハ長調	4/4	16	陽気に	1点ト～2点ト	ろ～1点ニ	
	アルザスの円舞曲 (Valse Alsacienne)	ト長調	3/4	20	リズムをはっきりと	1点ト～2点ニ	ニ～1点ニ	アクセント記号初出
	踊り続けましょう (Valsons toujours)	ハ長調	3/4	24	力強く	2点ハ～2点ト	ろ～1点ニ	転調初出
	アラビアの歌 (Chant Arabe)	イ短調	3/4	16	>がついている1拍目に力を入れて	1点イ～2点ホ	ほ～ホ	
	ごきげんよう (Bon voyage!)	ハ長調	4/4	16	少し速く、陽気に	2点ハ～2点ト	と～ト	
	むかしの歌 (Air d'autrefois)	ト短調	4/4	12	遅く、歌わせながら	1点ハ～2点ニ	嬰へ～1点ニ	
	バーゼルの思い出 (Souvenir de Bâle)	ヘ長調	3/4	8	やさしく	1点へ～2点ハ	ホ～1点ハ	
	マドロン (Madelon)	ヘ長調	6/8	8	リズムをしっかりと	1点ハ～1点イ	へ～ハ	左手が和音
	かわいミューゼット (Oh ma tendre musette!)	ニ短調	6/8	12	思いやりを持って	2点嬰ハ～ 2点イ	嬰ハ～1点へ	
	山の歌 (Chant des montagnes)	ハ長調	3/8	16	やさしく	2点ハ～2点イ	ホ～1点ハ	
	マリちゃん、パンをおあがり なさい (Marie trempe ton pain)	ヘ長調	6/8	16	朗らかに	1点ホ～2点ニ	と～い	

表 13 第6課程における楽曲とその内容

課程	課題曲（原題）	調性	拍子	小節数	速度・曲想	右手	左手	備考
第6課	ヴェニスの謝肉祭 (Carnaval de Venise)	ハ長調	6/8	24	舟唄のリズムで	2点ハ～2点イ	ろ～ト	
	小羊 (Petite Breis)	ト長調	2/4	8	しずかに	1点ト～2点ホ	ト～1点ニ	
	羊飼いの少女 (Il était une bergère)	ヘ長調	6/8	14	やわらかく、なでるように	へ～2点イ	へ～2点ハ	
	アイルランドの歌 (Mélodie irlandaise)	ハ長調	4/4	16	うたわせながら	1点ト～2点イ	ろ～1点へ	
	チロルの歌 (Tyrolienne)	ヘ長調	3/4	23	牧歌風に	イ～3点ハ	へ～2点ハ	
	民謡 (Air populaire)	ハ長調	4/4	16	十分に歌わせて	1点ト～3点ハ	ろ～ト	
	夕べの星 (Étoile du Soir)	変ロ長調	3/4	8	非常に美しく	1点ト～2点変ホ	ニ～1点ニ	
	お人よしの王様 (Le Roi Dagobert)	ト長調	6/8	16	狩りの歌のように	1点ト～2点ニ	嬰へ～1点ニ	

ものである。

養成校のテキストとして使用すべきピアノ教則本は、子どもの歌の伴奏の手がかりを見出す過程が盛り込まれ、実践に役立つ内容が相応しい。ピアノ教育の原点は教則本がどうあるべきか考えることから始まると鑑みると、学習者の目的意識と将来の展望に沿った内容であることが望ましい。

『メトードローズ』は各課程の中で予備練習と練習曲をバランスよく網羅しながら、習得すべきテクニックの内容と目的がわかりやすく明示されている。そのうえ理解すべき音楽理論が各練習曲の中で実践的に習得することもできる非常に体系的に構成された教則本である。このことから、決して子どもだけの教材ではなく、養成校のテキストとしても十分に価値を発揮することのできる極めて教育効果が高い教材であると結論づける。

## おわりに

本稿は初学者向けのピアノ教材の検討について『メトードローズ』を例にどのような内容が盛り込まれ、何が学べるのかについてまとめ、教材として

の価値を再考したものである。

『メトードローズ』は無理なく自然にピアノに慣れていけるように、フランスの童謡が多く収録されており、“歌うように弾けるようになる”教則本として知られている。筆者は保育者に必要な音楽的能力は第一に「歌」であると考えている。そのような意味で音楽的素養の土台作りに適した教材であると確信している。

優れた美しい旋律が多く掲載されているものの、今回はページ数の制限から各楽曲（課題曲）の詳細や音楽的特徴などに言及することができなかったことが大変悔やまれる。

『メトードローズ』について、具体的な指導面でのどのように活用すべきかについて検討していくなど、様々な知見と事例を蓄積していくことを今後の展望とする。

## 《註》

- 1 表は筆者が作成したものである。
- 2 安川加壽子は1940年代から活躍したピアニスト

で、東京藝術大学名誉教授、桐朋学園大学客員名誉教授、日本演奏連盟理事長、日本ピアノ教育連盟会長、日仏音楽協会会長、フランス語教育振興協会会長、日本ショパン協会会長、日本フォーレ協会会長などの重役を務めるなど、日本のピアノ教育界に多大な貢献を残した。

3 レガート (Legato) 「滑らかに」の意。

4 安川加壽子生誕 100 周年を記念して 2022 年のリニューアルしたもの。これまでの判型を一回り小さくし、針を使わない製本方法に変更された。

5 「月の光に」(Au clair de la lune) はジャン＝バティスト・リュリ (Jean-Baptiste Lully'1632 - 1687) の作品である。

教則本 『ピアノの 1 年生』 音楽之友社  
(受付日:2023年10月18日、受理日:2023年12月15日)

## 《引用文献》

井上基子 (2019) 「保育者・教員養成におけるピアノ教材についての考察—『バイエルピアノ教則本』の問題点を補う教材の提案—」『滋賀大学大学院教育学研究科論文集』 22, 83-93

鷹羽綾子 (2011) 「インストラクター制度によるピアノ補講レッスンの試み—『バイエルピアノ教則本』を用いて—」『名古屋学芸大学ヒューマンケア学部紀要』 5, 45-57

前田美樹 (2012) 「「子どもの歌」ピアノ指導法 1—『バイエルピアノ教則本』と『メトードローズピアノ教則本』の比較から—」『青森中央短期大学研究紀要』 25, 41-51

正本文恵 (2019) 「保育者養成課程におけるピアノ教則本の一考察」『目白大学高等教育研究』 26, 127-134.

山路麻佳 (2020) 「保育者養成におけるピアノ演奏技術の習得に関する考察—初心者のための教則本の比較—」『西南女学院大学紀要』 Vol.24, 127-139

山本和子・櫻井玲子 (2017) 「バイエル教則本の基礎研究—楽典の基礎によるピアノメソッドの習得—」『名古屋芸術大学研究紀要』 38, 295-307

「生誕 100 年 安川加壽子とメトードローズ」音楽之友社 (2022 年)

## 《使用楽譜》

安川加壽子 (2022) 『新版 メトードローズ・ピアノ